

# 平成23年度事業報告書

公益財団法人 日中友好会館

# 目次

	担当部局	頁
概況	・・・・・・・・・・・・・・・・	1
I、公益目的事業		
（公1）青少年交流・教育交流事業	総合交流部	
1、青少年交流事業（招聘）	・・・・・・・・・・・・・・・・	2
2、青少年交流事業（派遣）	・・・・・・・・・・・・・・・・	7
（公2）寄宿舎施設の運営	留学生事業部	
1、後楽寮入退寮状況	・・・・・・・・・・・・・・・・	11
2、後楽寮研修棟入退寮状況		
3、開寮以来の入退寮状況	・・・・・・・・・・・・・・・・	12
4、活動実績		
（公3）中国語及び日本語教育	日中学院	
1、学科別在籍者数	・・・・・・・・・・・・・・・・	15
2、各科活動状況	・・・・・・・・・・・・・・・・	16
3、その他		
4、日中学院評議会		
（公4）文化事業	文化事業部	
1、主催事業	・・・・・・・・・・・・・・・・	17
2、美術館展覧会実績	・・・・・・・・・・・・・・・・	20
3、その他の催事（公演、地方巡業展、協力事業）	・・・・・・・・	21
II、収益事業		
ビル及びホテル管理業務	資産管理部	
1、ビル賃貸業務	・・・・・・・・・・・・・・・・	22
2、ホテル宿泊施設（後楽賓館）		
3、レストラン事業		
III、その他の事業		
会員相互友好事業	日中友好後楽会	・・・・・・・・ 23
IV、法人会計部門		
1、人事	総務・財務部	・・・・・・・・ 25
2、広報	広報チーム	
3、財務	総務・財務部	
4、設備更新	資産管理部	・・・・・・・・ 26

V、法人の状況	頁
1、理事会	27
2、評議員会	28
2、学生寮運営委員会	
3、日中学院評議員会	
4、役員に関する事項	29
5、職員の状況	
6、日中学院教職員の状況	
7、役員名簿（評議員）	30
8、役員名簿（理事・監事）	31

## 概 況

平成23年は、欧州経済の低迷が要素となり、世界の政治経済情勢が大きく変化しました。その中で、アジア経済は比較的安定した成長を遂げていきました。この環境下において、日本と中国の政治経済は相互に影響を与える重要な関係となりました。日中両国の健全な友好関係は、両国国民に直接に大きな利益をもたらすだけでなく、アジア全体の安定と繁栄の大きな要素にもなっています。

平成 20 年の胡錦涛国家主席の来日以来、大規模な青少年交流が続いています。平成 24 年 2 月には、日中友好 7 団体の会長が訪中し、中国民間団体代表と幅広い協議を行いました。平成 24 年は日中国交回復 40 周年を迎える事もあり、各種交流が盛んになり、更なる友好関係の強化が期待されます。

当財団もその特性と機能を生かし、両国の友好関係の促進のために尽力して参りました。平成 23 年度の青少年交流事業は、中国から 2,780 名を日本へ招聘し、日本から 1,394 名を中国へ派遣しました。

平成 24 年度は、引き続き外務省の委託を受け「キズナ強化プロジェクト」により日中の青少年交流に積極的に取り組んで参ります。

平成 23 年 7 月 9 日、後楽寮では「後楽寮開設 25 周年祝賀会」を開催しました。最近では中国からの国費留学生が増加しており、後楽寮の入居率は大幅に向上しました。

中国の経済成長に伴い、中国語がますます必要になっています。日中学院ではより多くの学生を受け入れるようにカリキュラム・教材整備など教育内容の向上を図りました。一般社会人向けの公開・集中講座も増やしました。

文化事業としては、主催事業（計 5 件）を実施し、会館美術館の各種展覧会（16 件）も好評を博しました。

収益事業のホテル経営では、東日本大震災の影響を受け、宿泊客は減少し平均客室単価も低下しました。しかし、年度の後半には売り上げも例年並みに改善しました。また、賃貸業務のテナント経営は、空室（平成 24 年 3 月末時点）はありませんが、近隣ビル賃貸相場は低下しています。レストラン梅里においてはテナントを入れ替えてサービスの向上を図ります。

また、設備関連では、電気・ガスなどの光熱費の削減成果を期待し、ESCO 事業（Energy Service Company 事業）による工事を竣工いたしました。

最後になりますが、平成 23 年 6 月 30 日、当会館は公益法人改革に伴う公益法人への認可申請を行いました。内閣府の認定を経て、平成 24 年 4 月 1 日「公益財団法人 日中友好会館」に移行登記を完了しましたので報告申し上げます。

## 〔I〕 公益目的事業

### (公1) 青少年交流・教育交流事業 : 総合交流部

外務省より実施を委託された「21世紀東アジア青少年大交流計画(日中21世紀交流事業)」事業として、中国から18代表団、2,780名を日本へ招聘し、日本から8代表団、1,394名を中国へ派遣した。

#### 1. 青少年交流事業(招聘)

##### (1) 中国高校生短期招聘事業

中国高校生1,189名、香港・澳門高校生70名、アジア国際子ども映画祭参加中国高校生12名、合計1,271名を招聘した。平成23年3月に発生した東日本大震災の影響で、中国高校生第1陣と第2陣分は延期となった。また訪問先について、もともと東北や茨城県等も予定していたが、円滑な受け入れが難しいと判断し第3陣以降については他地域に振り替えるなどして調整・実施した。

香港・澳門高校生は当初7月に実施予定であったが、12月に時期を変更し実施した。

陣名・団名	招聘期間	招聘人数	訪日団参加地域	訪問先
第1陣	5月17日(火)～ 5月25日(水)	(300)	延期	
第2陣	6月14日(火)～ 6月22日(水)	(400)	延期	
第3陣	9月11日(日)～ 9月19日(月)	397	北京市、吉林省、河北省、 江西省、湖南省、山西省、 江蘇省、広東省	北海道、富山、福井、新潟、 埼玉、千葉、東京、神奈川、 静岡、愛知、滋賀、京都、 大阪、和歌山、兵庫、広島、 佐賀、長崎
第4陣	10月18日(火)～ 10月26日(水)	396	北京市、黒龍江省、寧夏回 族自治区、浙江省、江西省、 内蒙古自治区、広西チワン 族自治区、雲南省、海南省	北海道、新潟、東京、千葉、 埼玉、静岡、長野、京都、 大阪、兵庫、広島、岡山、 香川、大分
第5陣	11月8日(火)～ 11月16日(水)	396	北京市、重慶市、上海市、 河北省、遼寧省、安徽省、 陝西省、江蘇省、貴州省、	青森、東京、埼玉、神奈川、 愛知、長野、京都、兵庫、 岡山、徳島、鹿児島
香港・澳門 高校生訪日団	12月13日(火)～ 12月21日(水)	70	香港、澳門	東京・熊本

アジア国際 子ども映画祭	11月29日(火)～ 12月7日(水)	12	北京	東京・兵庫
合 計		1,271		

#### 概要と成果：

訪日団は東京で歓迎レセプションなどの公式行事に参加した後、コース毎に各地の高等学校を訪問し（滞在中2回）、日本高校生と共に英会話や調理実習などの授業に参加し、体育の授業でスポーツ交流をした。また授業後は茶道や柔剣道などの部活動に取り組み積極的に日本の高校生活を体験した。

その他、訪問校の生徒宅を中心に1泊ないし2泊のホームステイを行った。ホストファミリーと一緒にバーベキューを楽しみショッピングに出かけるなど家庭生活を一緒に過ごすことで親睦を深めお互いの親近感を強めた。

その他、環境・防災・歴史・文化・自然などさまざまな分野の視察・参観を通し、広く日本についての理解を深めた。

またアジア国際子ども映画祭（※）に中国を代表し北京師範大学附属実験中学の高校生が参加、優秀賞を受賞した。

（※）日本を含むアジアの11の国と地域が参加し子どもたちがホームビデオを使って制作した映像作品を上映し、その内容を競い合う大会。南あわじ市で開催。

中国側担当機関：中国教育部、香港特別行政区政府教育局

澳門特別行政区政府教育暨青年局

受け入れ実施：（財）日中友好会館、一部を（社）日本中国友好協会、（財）日本国際協力センター、（社）青年海外協力協会に委託。

#### （2）中国青年代表団の招聘事業

中国の社会人720名を2陣に分けて招聘した。社会人の団員構成は、青年指導者、経済、メディアほか、さまざまな分野で将来活躍が期待される青年（下記、分団構成参照）。

「公務員分団」と「医療・衛生分団」は、当初第1陣で来日予定だったが、中国側の申し出により延期となり第2陣で改めて実施した。

陣名	招聘期間	招聘人数	団員構成	訪問先
第1陣	6月29日(水) ～7月6日(水)	304	青年指導者、経済、メディア、環境保護（生態保護対策）、映画、テレビ関係者、対日観光関係者、教育関係者、司法関係者	福井、新潟、山梨、東京、愛知、長野、京都、大阪、兵庫
第2陣	8月24日(水)	416	青年指導者、公務員、経済、医療・	北海道、山形、栃木、東京、静

	～8月31日(水)		衛生、メディア、大学生村官と青年ボランティア、科学技術、省エネ・環境保護、文化芸術	岡、愛知、長野、京都、大阪、兵庫、島根
合 計		720		

#### 概要と成果：

代表団は、分団毎にテーマに沿った行政機関への表敬訪問し説明を受けた。さらに関連施設の視察・参観等のプログラムに積極的に参加したほか同分野の日本青年との合同合宿やホームステイ（一部のみ）を通して対日理解を深めた。

新たな取り組みとし帰国前日に再度全分団が集合し歓送報告会を行った。報告会では各分団の交流模様の写真をまとめたスライドショーを上映した。また各分団の団員代表が活動内容を報告し、訪日の感想や成果をお互いに発表した。

この活動は多くの日本メディアにも取り上げられ、訪問各地で日中友好のムードを盛り上げた。

中国側担当機関：中華全国青年連合会

受け入れ実施：(財)日中友好会館、一部を(社)日本中国友好協会、(財)日本国際協力センター、(社)青年海外協力協会、NPO日中新世紀協会、(財)国際看護交流協会、(社)日中科学技術文化センターに委託。

#### (3) 中国教育関係者代表団（第十六回中国教育関係者代表団）の招聘事業 第十六回中国教育関係者代表団 30名を招聘した。

招聘期間	招聘人数	団員構成	訪問先
11月15日(火)～11月22日(火)	30	小・中・高等学校の教員等	東京、京都、大阪

#### 概要と成果：

代表団は東京、京都、大阪を訪問し、小学校、高等学校、中高一貫校、大学、そして教育委員会への訪問や文部科学省の説明会を通し日本の教育事情についての理解と知識を深めた。また、教師や教育関係者・生徒たちと交流し友好を深めた。

大阪府教育委員会との懇談会では日本における教育実践の現状・課題、教員評価制度・採用基準、キャリア教育の現状についてなど活発な意見交換が行われた。

中国側担当機関：中日友好協会

受け入れ実施：(財)日中友好会館

#### (4) 中国国家行政学院公務員訪日研修団の招聘事業

中国の国家行政機関の幹部候補生を養成する中国国家行政学院において公共管理学修士(MPA)コースを履修する公務員 23 名を招聘した。平成 23 年度の招聘事業では東日本大震災後初めて実施となった。

招聘期間	招聘人数	団員構成	訪問先
6月28日(火)～7月5日(火)	23	公務員	東京、岡山

#### 概要と成果：

人事院において日本の国家公務員の制度と倫理に関する講義を受講したほか、青年公務員と交流し、活発な意見交換を行った。

また訪日研修テーマである「日本のコミュニティ発展の状況」に基づき総務省では「日本の地方行政のあらまし～市町村を中心に」を農林水産省では「日本の農村コミュニティ発展における政策展開」の講義を受けた。早稲田大学や富士通株を訪問し講義や懇親会を行い、行政とは異なる視点からテーマへの考察を深めた。他にも岡山県では、J A岡山と岡山市連合町内会を訪問。直売所や選果場の現場視察を行い、農村・地域コミュニティについて一層の理解を深めた。

中国側担当機関：中国国家行政学院

受け入れ実施：(財)日中友好会館

#### (5) 中国社会科学院青年研究者代表団の招聘事業

中国社会科学院に所属する若手の研究者 149 名を、3回に分けて招聘した。

陣名	招聘期間	招聘人数	テーマ別分団構成	訪問先
第1陣	7月24日(日)～ 7月30日(土)	48	①東アジア情勢 ②市民社会と政治	東京、京都、大阪、兵庫
第2陣	9月12日(月)～ 9月18日(日)	50	①中米関係、日米関係 ②司法関係	東京、広島
第3陣	平成24年2月26日 (日)～3月3日(土)	51	①地方自治 ②環境経済	東京、京都
合計		149		

#### 概要と成果：

交流テーマに基づき、大学やシンクタンク、関連施設等を訪問し、研究者や関係者との交流を行った。またテーマに関連する省庁からの説明会や企業視察も行い包括的な日本理解を促進した。

交流テーマは近年中国国内で重要視され始めている分野が多く中国の若手研究者達は



日本の持つノウハウを学ぶべく積極的な意見交換を行った。

中国側担当機関：中国社会科学院  
受け入れ実施：(財)日中友好会館

#### (6) 中国青年メディア関係者代表団の招聘事業

中央、地方の若手メディア関係者、メディア行政関係者 249 名を 3 回に分けて招聘した。

陣名	招聘期間	招聘人数	テーマ別分団構成	訪問先
第1陣	7月31日(日)～ 8月6日(土)	91	①環境・省エネ ②都市と農村 ③クールジャパン	東京、滋賀、愛知、兵庫
第2陣	10月17日(月)～ 10月23日(日)	94	①観光による地域活性化 ②教育 ③防災	東京、秋田、石川、新潟
第3陣	12月12日(月)～ 12月18日(日)	64	①ネットメディア ②ハイテク医療	東京、神奈川、京都、大阪、兵庫
合計		249		

#### 概要と成果：

全陣共通で東京または地方の報道機関（新聞社、テレビ局、ネットメディア企業）を訪問しメディア関係者の交流を深めた。

1陣、2陣では日中メディア懇談会を実施。メディアシステム、取材、報道、人材育成等さまざまな側面における日中の違いや直面している共通の課題について真摯に意見交換をした。相互に意義のある交流であった。その他、各テーマに沿って農業視察や農家泊の体験をし防災施設の参観、幼稚園や高校訪問などさまざまな角度から日本理解を深めた。

中国側担当機関：中国国務院新聞弁公室  
受け入れ実施：(財)日中友好会館

#### (7) 日中次世代幹部交流訪日団の招聘事業

2回に分けて、次代の日中関係に貢献する中国の中央・地方行政機関および企業の中堅幹部 240 名を招聘した。

陣名	招聘期間	招聘人数	テーマ	訪問先
第1陣	9月4日(日)～ 9月10日(土)	112	都市と農村	北海道、東京、千葉

第2陣	平成24年3月18日 (日)～3月24日(土)	128	金融	東京、京都、大阪
合計		240		

概要と成果：

第1陣は「都市と農村」、第2陣は「金融」というテーマを掲げ来日。各テーマに基づき関連省庁での講義や関連施設の視察など、さまざまなプログラムに参加し包括的な対日理解を深めた。

「都市と農村の共存」や「次世代につながる金融のあり方」は近年中国で関心の高い課題であり活発な意見交換と質疑応答が交わされた。

中国側担当機関：中国国家外国専門家局

受け入れ実施：(財)日中友好会館

#### (8) 日中韓青少年交流の招聘事業

この事業は温家宝総理の提案により2007年から開始された。日本、中国、韓国の三カ国で持ち回りとなっている。三カ国の青少年交流を通し友好と相互交流の増進を図ることを目的とした事業。平成23年度(第5回目)は日本での開催で中国の青年98名を招聘した。

招聘期間	招聘人数	団員構成	訪問先
3月11日(日)～3月17日(土)	98	中国青年	岩手、山梨、東京、京都

概要と成果：

各国約100名の青年が集い交流を図った。開催テーマ「持続可能な社会に向けた協力」のもと3つのコースに分かれた。各コース「防災」「省エネルギー」「クリーンエネルギー」のサブテーマに関連する視察、交流を行った。

特に「防災」コースは東日本大震災の被災地である岩手県遠野市・釜石市を視察しボランティア活動にも参加した。その他、共同ワークショップや日中韓青年文化祭を行い互いに友情を深めた。

中国側担当機関：中華全国青年連合会

受け入れ実施：(社)青年海外協力協会

## 2. 青少年交流事業(派遣)

### (1) 日本高校生訪中代表団の派遣事業

日本の高校生単独の代表団として358名を3陣に分けて派遣した。また、第2陣248名は

11月に実施した2011日本青少年訪中代表団第2陣と同時に派遣。(下記(2)参照)

陣名	派遣期間	派遣人数	訪中団参加地域	訪問先
第1陣	6月15日(水)～ 6月21日(火)	101	京都、和歌山	北京、黒龍江省(ハルビン)、遼寧省(大連)
第3陣	12月6日(火)～ 12月12日(月)	156	岩手、宮城、福島、東京	北京、上海、湖北省(武漢)、山東省(濰坊市)
第4陣	平成24年 3月20日(火)～ 3月26日(月)	101	神奈川、愛知	北京、上海、四川省(成都)
合計		358		

#### 概要と成果：

中国各地において高校を訪問し授業体験等を通して日中高校生同士の交流を図った。さらに1～2泊のホームステイを行い家庭生活や中国文化への理解を深めた。また各地で中国文化、歴史遺産等の参観を行った。

第3陣は丹羽宇一郎駐中国大使の発案により「サッカー交流」をテーマとして訪中した。

(財)日本サッカー協会の協力を得て被災地支援の一環とし岩手、宮城、福島の3県から高校生を選抜した。各訪問校で日中混成チームによるサッカー交流を行ったほか、山東省ではサッカーの強豪校として有名な魯能泰山サッカー学校と試合を行った。この試合では寒さも忘れる熱いプレーが団員だけではなく観客にまでに伝わりスポーツを通じた友好の雰囲気を盛り上げた。

中国側担当機関：中日友好協会

派遣実施：(財)日中友好会館

#### (2) 日本青少年訪中代表団の派遣事業

2011日本青少年訪中代表団(平成23年度日本高校生訪中代表団第2陣を含む)として、日本の高校生248名、社会人687名、計935名を2回に分けて派遣した。高校生は1都1府4県の高校生で構成。社会人は経済、メディア、教育関係者等、それぞれの分野で将来活躍が期待される青年で構成され派遣した。(下記、団員構成参照)

団名	派遣期間	派遣人数	団員構成	訪問先
2011日本青少年訪中代表団第1陣	10月12日(水)～ 10月18日(火)	462	行政・国会議員、友好団体、経済、地方交流、ポップカルチャー、ミス日本、メデ	北京、上海、吉林省(長春)、遼寧省(大連)、河南省(鄭州)、四川省(成

			ィア、教育関係者、環境・省エネ、文化	都)、湖北省(武漢)、湖南省(長沙)、広東省(深圳)
2011 日本青少年訪中代表団第 2 陣	11 月 23 日(水)～ 11 月 29 日(火)	473 (内高校生 248 名)	経済、友好団体、学術研究者、クールジャパン、環境・省エネ、大学生 高校生(千葉、茨城、東京、兵庫、岩手、大阪)	北京、上海、山東省(済南、煙台、青島)、江西省(南昌)、雲南省(昆明)、福建省(福州)、広東省(広州)
合計		935		

#### 概要と成果：

代表団は北京で中国文化体験活動と中華全国青年連合会主催の歓迎宴に参加した後、コース毎に中国各地に分かれ活動を行った。地方政府や関係機関の表敬訪問、大学、企業、メディア機関、コミュニティー等の参観を行い、各地で同分野の中国青年らと意見交換会や懇親会を実施して相互理解を深めた。

日本高校生は各地で高校を訪問し、同世代との親睦を深めた。またホーム・ビジットにより一般家庭の生活も体験した。

中国側担当機関：中華全国青年連合会

派遣実施：(財)日中友好会館

(3) 2011 日本教育関係者訪中団(第十七回都道府県教育訪中団)の派遣事業  
全国 1 都 2 府 15 県から推薦された日本の教育関係者 24 名を 9 月に派遣した。

派遣期間	派遣人数	団員構成	訪問先
9 月 17 日(土)～9 月 24 日(土)	24	教育関係者	北京、上海、陝西省(西安)

#### 概要と成果：

中国教育部、陝西省教育庁の表敬訪問の他、北京、西安において小学校、高等学校、大学、盲啞学校、少年宮を訪問した。

各校で現場の視察と教育関係者と互いの教育事情の相違点や共通の課題等に関して意見交換を行い相互理解を深めた。

また北京では万里の長城や故宮博物院、西安では兵馬俑博物館や明代の城壁・青龍寺等を参観し中国の悠久の歴史・文化を体感した。

中国側担当機関：中日友好協会

派遣実施：(財)日中友好会館

#### (4) 日本青年映像関係者代表团

北京、上海で開催された日中映像交流事業「日本映画、テレビ週間」、「日本アニメ・フェスティバル」の開幕に合わせて、日本から映像関係者 43 名（内大学生 30 名）を派遣した。

（※日中映像交流事業は、2010 年 5 月の日中首脳会談で 2011 年の実施が合意されたもの）  
（財）日中友好会館が中国でのプログラムアレンジを実施。

派遣期間	派遣人数	団員構成	訪問先
6月7日(火)～6月13日(月)	43	映画等に関する大学生、 大学院生、専門学校生など	北京、上海

#### 概要と成果：

代表团は日中映像交流事業「日本映画、テレビ週間」「日本アニメ・フェスティバル」北京開幕式典および交流会と「2011 上海・日本映画週間」オープニング交流会に参加した。中国の映像関係者との交流の機会に恵まれた。特に北京の開幕式典には麻生太郎総理特使、温家宝総理も出席した。

大学生一行は中国中央電視台・映画撮影所・アニメ製作所を訪れた。テレビ放送や映像制作の現場を見学し日本との違いやスケールの大きさ及び中国の映像事情を学んだ。一方、北京電影学院、上海外國語大学では、食事交流会を通して日中青年同士の交流を図った。特に北京電影学院では、山田洋次監督の作品「母べえ」を同学院の学生と一緒に鑑賞した。その後、山田監督も同席し交流するなど貴重な機会であった。

派遣実施：（財）日中友好会館

#### (5) 2011 日本青年メディア関係者訪中団

日本全国から集まった新聞、放送、雑誌、広告などの青年メディア関係者 34 名を派遣した。日中青少年交流事業として中国國務院新聞弁公室招聘による日本メディアの初めての訪中団となった。

派遣期間	派遣人数	団員構成	訪問先
12月19日(月)～12月25日(日)	34	メディア関係者	北京、遼寧省(瀋陽、大連)

#### 概要と成果：

訪中団は「日中協力」をテーマとし北京市・瀋陽市・大連市を訪問した。中国メディア関係者や日本研究者と率直に意見交換を行った。また中国を代表する大型企業やコミュニティー等を視察し中国のメディア事情や発展の状況、人々の暮らしについてなど理解と知識を深め関係者との友好を深めた。

中国側担当機関：中国國務院新聞弁公室

派遣実施：（財）日中友好会館

## (公2) 寄宿舍施設の運営 : 留学生事業部

留学生・研究員の受入事業用施設として「後楽寮」及び「後楽寮研修棟」がある。「後楽寮」には203室の個室があり、後楽賓館の2階と3階の34室を「後楽寮研修棟」としている。

### 1. 後楽寮入退寮状況

#### (1) 資格区分別入退寮者数

	平成23年4月1日 時点の在寮生数	平成23年度		平成24年3月31日 現在の在寮生数
		入寮生数	退寮生数	
国家公派	106	75	63	118
単位公派	15	13	18	10
自費学生	26	39	18	47
華僑学生	5	0	1	4
合計	152	127	100	179

\* 国家公派とは中国教育部の派遣研究員

\* 単位公派とは地方政府機関、大学、研究所の派遣研究員

\* 自費学生は大学院正規課程生（修士課程・博士課程）

#### (2) 男女別入退寮者数

	平成23年4月1日 時点の在寮生数	平成23年度		平成24年3月31日 現在の在寮生数
		入寮生数	退寮生数	
男子	78	69	43	104
女子	74	58	57	75
合計	152	127	100	179

(入居率の目標80%に対し期末実績は88.1%)

### 2. 後楽寮研修棟入退寮状況

#### (1) 資格区分別入退寮者数

	平成23年4月1日 時点の在寮生数	平成23年度		平成24年3月31日 現在の在寮生数
		入寮生数	退寮生数	
国家公派	0	7	1	6
単位公派	14	22	14	22
合計	14	29	15	28

\* 国家公派とは中国教育部の派遣研究員

\* 単位公派とは地方政府機関、大学、研究所の派遣研究員

(2) 男女別入退寮者数

	平成 23 年 4 月 1 日 時点の在寮生数	平成 23 年度		平成 24 年 3 月 31 日 現在の在寮生数
		入寮生数	退寮生数	
男子	7	13	9	11
女子	7	16	6	17
合計	14	29	15	28

(入居率の目標 80% に対し期末実績は 82.3%)

3. 開館以来の入退寮状況

「後楽寮」は昭和 60 年 4 月に、また「後楽寮研修棟」は昭和 63 年 4 月に開設された。それぞれ満 26 年および 23 年が経過したが、その間の入退寮者数は「平成 23 年 3 月末現在次の通りです。

	入寮数	退寮数
後 楽 寮	3, 226	3, 047
後楽寮研修棟	831	803
合計(人)	4, 057	3, 850

4. 活動実績

(1) 施設の改修・改善

- ・後楽寮受付の改修
- ・後楽寮居室の空調設備改修更新
- ・地下食堂及び新聞閲覧室の空調設備改善  
留学生事業部事務室と図書室に個別空調設置。
- ・後楽寮地下通路の壁の塗り替えと床の張り替え。

(2) 行事等

(イ) 寮内行事

寮生全員が中国人留学生であり、毎年国慶節・春節の祝賀会を実施している。この祝賀会は寮生委員会主催による行事でもあり、指導教授を招待する他、寮生同士や知人との親睦を深める機会となっている。会館は毎年も開催支援している。

(ロ) 寮外行事

寮生と日本国民との交流活動の場として長野・小田原・加須等の日中友好団体および個人の協力を得て、各地でのホームステイを支援した。また、寮生の都内各地での日中友好関連行事への参加についても積極的に支援した。

#### (ハ) 新入寮生懇親会

当会館の役職員との交流や寮生同士の親睦を考慮して毎年実施している。これは寮生の入寮時期や在寮期間がまちまちであり、かつ寮生は日頃の勉学・研究に多忙なためである。昨年度も6月と12月に実施した。

#### (二) 奨学金

社団法人岸本クラブより模範的な寮生39名に総額100万円が提供された。平成23年8月に第26回奨学金贈呈式を催した。

#### (3) 学生寮運営委員会

第30回学生寮運営委員会を3月14日に開催した。ここでは平成23年度の寮運営と新年度の学生寮運営方針等について審議した。委員会では公費留学生入居率の向上や寮の防災について協議がされたほか入寮基準などの基本事項を確認した。また寮の運営等について中国大使館教育処・東京華僑総会・外務省・寮生委員会から意見を聴取した。

#### (4) その他

##### (イ) 後楽會(中国)

過去から、北京において会館と元後楽寮生のネットワークを目的とした後楽寮OB会を設立するために会館の元中国人職員と元後楽寮生が集まり懇親会を開催していた。平成23年11月には「後楽會(中国)友好聯誼会」が正式に立ちあがった。会館は会の設立を支援した。従来「日中友好会館中国後楽会」としていたが、正式に「後楽會(中国)友好聯誼会」になった。

##### (ロ) 留日学人活動站

8月12日～20日に訪日団をお迎えした。北京総会(12月3日)には会館から谷野副会長と王昆中国代表理事が参加した。会館は去年に続き「留日学人活動站」への支援をした。

##### (ハ) 後楽寮の見学会

ホームステイ先各地の日中友好協会が会館と後楽寮を訪問した。

11月：「長野県日中友好協会女性委員会」40名

12月：「諏訪市日中友好協会」24名

協会の方々には会館施設や後楽寮の立地環境、寮生居室、後楽寮設備などを見学した。その後、後楽寮食堂でホームステイに参加した寮生をはじめ多くの寮生と交流した。



## (二) 後楽寮芸術団

寮生により平成22年5月に結成された演芸（歌舞）を披露する組織である。当初は後楽寮の国慶節や春節での披露が中心であったが、内容と技量も向上していった。その結果、都内各友好協会から出演依頼が来た為に、新年会や春節の行事にて演芸を披露し好評を博した。この芸術団の活躍は日中友好協会発行「日本と中国」（平成24年3月25日号）にも紹介された。

## (ホ) 日光山荘

日光中禅寺湖畔にある会館所有・自主管理の宿泊施設である。主な利用者は後楽寮生であるが、中国大使館・日中学院の先生方も利用している。例年はゴールデンウィーク、夏休み、毎週末に利用されていたが、今年は3月11日に発生した東日本大震災の影響で利用者が大幅に減少した。

## (公3) 中国語及び日本語教育 : 日中学院

### 1. 学科状況

#### (1) 本年度、日中学院の在籍者数

	平成 24 年 3 月	平成 23 年 3 月	平成 22 年 3 月
本科	67人	66人	58人
別科夜間	263人	281人	228人
別科昼間	493人	522人	533人
日本語科	39人	54人	45人
文化講座	15人	16人	16人
合計 (人)	877人	939人	880人

### 2. 各科活動状況。

#### (1) 本科 (専門課程)

- 平成 23 年度卒業生数

本科 20名。 本科研究 9名。

- 平成 23 年度の主な行事

都内見学 (6月10日)、春季合宿 (5月17、18日)、遠足 (7月12日)  
文化祭 (10月29日)、スポーツ大会 (2月3日)  
弁論大会 (1月24日)

- 公開講座 8月、11月、1月に実施し参加者数は32名。

- 中国短期研修

派遣先：中国人民大学。派遣期間：6月25日～7月31日。参加者数：16名

- 進路指導

進路面接： 4月18日

進路懇談会： 第1回 5月12日： 就職活動セミナー  
(東京しごとセンター就職支援アドバイザー)  
第2回 6月2日： 「卒業生を囲んで」

#### (2) 別科 (付帯教育 夜間コース)

- 担任会議 各クラス報告 テキスト編集
- 公開講座 年間7回実施。
- 朗読大会 年間5回実施
- 1日学習会 年間延べ6回実施

(3) 別科 (付帯教育 昼間コース)

- ・日本語科留学生との交流会 3回実施。
- ・公開講座 年間14回実施

(4) 日本語科 (専門課程)

- ・卒業生及び修了生 21名
- ・平成23年度の主な行事
  - 都内見学 (6月10日)、春季合宿 (5月17～18日)
  - 別科との昼食会 (6月1～3日)、遠足 (7月12日)
  - 文化祭 (10月29日)、箱根・鎌倉 (11月18日)
  - スポーツ大会 (2月3日)
  - 国会見学 (1月13日)、弁論大会 (1月24日)
  - 春節パーティ (1月20日)

3. 校友会活動

(1) 留学生とのバスハイク 平成23年9月10日

初秋の秩父を訪ねる旅、長瀬ライン下り、飯盒炊飯体験。

(2) 山西省平遥古城と懸空寺、五台山古刹を訪ねる旅 (3月22日～27日)

4. 日中学院評議会

開催日時	場所	議事事項
第31回 平成24年2月21日(火) 午後2時00分～3時00分	日中学院	[議事] ① 平成24年度日中学院活動計画について ② 平成24年度日中学院予算について

## (公4) 文化事業 : 文化事業部

平成 23 年度の文化事業は主催事業合計 5 件、会館美術館での展覧会は 16 件であった。

### 1. 主催事業

#### (1) 「王宏喜・潘宝珠 中国画の世界展」

会期：2011 年 6 月 6 日（月）～6 月 26 日（日） 会場：日中友好会館美術館

作者は元江蘇連雲港市美術家協会主席の王宏喜氏と優雅な女性画を得意とする王夫人の潘宝珠氏。「夫妻展」としては、「潘公凱・励国儀展」と「楊力舟・王迎春展」に続いて 3 組目。東日本大震災発生後初の展覧会でありご夫婦が来日できるか懸念された。しかし、予定通り来日し開幕式、制作実演、チャリティを実施した。これは CCTV 大富などのメディアにも取り上げられた。

内容は古典・現代の人物を描いた中国画。中国画は日本にも愛好者が多いが今回は抽象性と写実的な描写を併せ持った、特色ある中国画の作品を紹介することができた。三国志や楊貴妃などの日本でも認知度の高い歴史人物が描かれており、美術に詳しくない方でも楽しんでもらうことができた。来場者数は約 1300 名 (18 日間)。アンケート結果も肯定的・好意的な内容がほとんどだった。

#### (2) 「編むかたち・織るこころー中国竹草工芸展」

会期：2011 年 8 月 1 日（月）～17 日（水） 会場：日中友好会館美術館

中国文化部の支援と協力の元、中国伝統工芸 竹・草工芸作品 85 点を展示した。竹編みの書画、壺、扇などの観賞品から、背負い籠、物入れなどの生活用品まで多岐にわたる分野の展示となった。繊細な編みの技術や中国独特の編み方などを紹介することができ、日本の竹・草工芸に見慣れた来場者にも新鮮に映ったようだった。低予算の割に、バラエティーに富んだ作品展示で来場客の満足度は高かった。来場者数：753 人 (13 日間)

#### (3) 第 21 回中国文化之日「大草原からの響き 2011ーフルンボイル民族歌舞劇院公演」 「モンゴル族の暮らし展」

会期：2011 年 9 月 30 日（金）～10 月 23 日（日）(展覧会)

2011 年 10 月 21 日（金）～10 月 23 日（日） 全 5 回 (小学生園児特別公演・一般公演)

2011 年 10 月 24 日（月）(早稲田大学大隈記念講堂大講堂特別公演)

2011年10月25日（火）（東京都立文京盲学校交流公演）

会場：日中友好会館美術館（展覧会）・大ホール（公演）

内モンゴル自治区に暮らすモンゴル族やエヴェンキ族、ダウール族などの少数民族の文化と暮らしを紹介する公演と展覧会を開催した。一般公演では馬頭琴やホーミーの知名度が高く、2007年のモンゴル族公演のリピーターが来場したため全回満席となった。今回招聘したフルンボイル民族歌舞劇院のレベルが非常に高く豊富多彩なプログラム構成で「何度も見たい」「来年もやってほしい」という声が多く聞かれた。東日本大震災の影響で巡回公演が実現できず残念だったが、初めて早稲田大学や文京盲学校にて交流公演を行うことができ、非常に有意義な交流ができた。今後も継続していきたい。

展覧会は、フルンボイル市文化局の多大な協力により博物館の貴重な所蔵品を無償で借用できた。実際に入ることができる移動式住居ゲルの展示や民族衣装の試着体験、ホーミーのミニ講座など、体験型のイベントも実施し、内モンゴルの暮らしに親近感を感じられるイベントを企画した。「フルンボイル市」は日本人にとってなじみのない地方であるが、このイベントによってアピールできた。

公演動員数：751人（東京）、510人（小学生園児、早稲田大学、文京盲学校）

展覧会来場者数：2607人（21日間）

#### （4）「新春展 祈りと祝福の藍布ー中国貴州ろうけつ染め展」

会期：2012年1月28日（土）～2月22日（水） 会場：日中友好会館美術館

貴州省の少数民族によるろうけつ染めの祭鼓幡（招魂幡）と子守帯を中心に66点を展示した。全て国立中国美術館より所蔵品を無償で借用。主にミャオ族、革家、パイ族の女性によるもので、布や染料から自ら作り生活用品や衣装に仕立てたものである。祭鼓幡のダイナミックな展示と、子守帯や衣装の精緻な染めと刺繍が来場客を魅了し好評だった。入場者：2,062人（22日間）

#### （5）日本青年音楽団派遣 第4回中国国際青年芸術週間参加

会期：2011年8月12日（金）、13日（土）

会場：北京市中国音楽学院国音堂

日中の青年の文化交流を促進することを目的に日本の芸術団を中国へ派遣する事業を新たに開始した。東京藝術大学の杉木峯夫教授が率いる学生トランペット団14名と、ミュージシャンの新井泰男先生率いるジャズ団10名が、北京対外文化交流協会の受け入れで「第4回中国国際青年芸術週間」に参加した。

会場となった中国音楽学院国音堂は収容750名の新しい音楽ホールで、地元客や学生で

盛況な公演となった。中国の観客の前で演奏し観客と触れ合い「感動した。良かった。」という声を多くもらったこと、中国最新の設備のホールで演奏したことなど、全てが演奏団員たちにとって貴重な体験となり今後の交流の足掛かりとなった。今後も日本青年の訪中演奏やイベント参加など、文化交流を通じて日中青年を結び付けていきたい。

(6)「中国第11回全国美術展受賞優秀作品による 現代中国の美術」富山巡回展  
会期：2011年4月16日(土)～6月12日(日)  
会場：富山県立近代美術館

主催事業である上記展覧会を富山に巡回開催した。この富山巡回展は成功裏に閉幕し、展示作品の返還作業・輸送・各巡回展会場との連絡など、終了後の作業は全て7月に無事終了した。2010年から続いたこの展覧会では、低コストで効率よく運営することができた。

## 2. 美術館展覧会実績

(平成23年4月～平成24年3月)

	展覧会名	会期	主催
1	第二回中日議員・公務員書法作品展	5月26日～5月29日	中国書法研究院
2	王宏喜・潘寶珠 中国画の世界	6月6日～6月26日	(財) 日中友好会館
3	第5回亜細亜国際画家展	7月11日～7月18日	亜細亜国際美術会
4	第17回BESETO美術展東京展	7月21日～7月26日	美術の杜出版株式会社
5	編むかたち・織るこころ—中国竹草工芸展	8月1日～8月17日	(財) 日中友好会館
6	筆之友選抜書展	8月22日～8月28日	書道奨励会
7	全国こども 図画コンクール	9月9日～9月10日	AIG・スター生命保険株式会社
8	第21回中国文化之日 モンゴル族の暮らし展	9月30日～10月23日	(財) 日中友好会館
9	第9回東瀛印社篆刻展	10月27日～11月2日	東瀛印社
10	第22回日中友好自詠詩書交流会東京展	11月3日～11月6日	日中友好自詠詩書交流会事務局・ (株) 美術出版 修美社
11	復興之光—記念辛亥革命100周年全国著名国画家作品展	11月7日～11月9日	ショッピングウ株式会社
12	水墨境域—日中美術作品交流展	11月15日～11月20日	有限会社 新民画廊
13	第10回天真書法塾臨書発表会	11月25日～11月27日	NPO法人天真会天真書法塾
14	第14回国際水墨画交流協会	11月28日～12月4日	国際水墨画交流協会
15	記念辛亥革命100周年中国油絵日本交流展	12月5日～12月11日	中国日本友好協会
16	景雲書道展	2012年1月20日～1月23日	景雲会
17	祈りと祝福の藍布—中国貴州ろうけつ染め展	1月28日～2月22日	(財) 日中友好会館
18	中国奥地の蘭展	2月27日～3月4日	中国奥地の蘭協会
19	中国友聯画院画家5人美術作品展	3月19日～3月25日	中国友聯画院
20	回顧中国・辛亥革命100年記念総合美術作品展	3月26日～4月1日	中国美術家協会

### 3. その他の催事（公演、地方巡回展、協力事業）

	催事名	会期	会場
1	第21回中国文化之日 大草原からの響き2011 フルンボイル民族歌舞劇院公演	10月21日～23日	日中友好会館（大ホール）
2	フルンボイル民族歌舞劇院 早稲田大学大隈講堂大講堂公演	10月24日	早稲田大学大隈講堂大講堂
3	フルンボイル民族歌舞劇院 文京盲学校交流公演	10月25日	東京都立文京盲学校
4	日本青年音楽団派遣 第4回中国国際青年芸術週間 参加	8月12日～13日	中国音楽学院国音堂ホール（北京）
5	「中国第11回全国美術展受賞優秀作品による 現代中国の美術」富山巡回展（2010年度催事）	4月16日 ～6月12日	富山県立近代美術館



## 〔Ⅱ〕収益事業

### ビル及びホテル管理運営業務 : 資産管理部

#### 1. ビル賃貸業務

平成23年度も飯田橋周辺地区のオフィス賃料相場は、ゆるやかに下降を続けており、引続き厳しい環境下でのオフィスビル運営を強いられている。しかし、事務室の空室を全て埋める事ができ、前年度を上回るオフィス賃貸料収入を確保することができた。

賃料収入は650百万円と前年比38百万円の増収を確保した。これは一部のテナント賃料の減額更改を行ったが、オフィスの満室を維持できた事と、また期中のフリーレント期間が終了した事による。

平成24年度は幾つかの大口テナントの契約の更新を控えており、テナントの退去防止に加えて、賃料水準の維持が重要な課題となる。

#### 2. ホテル宿泊施設（後楽賓館）

昨年3月に発生した東日本大震災とそれに伴う福島第一原子力発電所の事故により、年度初めの4月から大きな影響を被った。特に中国人宿泊客の減少は顕著であった。中国人宿泊客数は、震災後1年を経過した平成24年3月に、ようやく月間1,000名超の通常の水準に回復した。

受験生やビジネス目的の日本人宿泊客の積極的な取り込みにより、平成23年度の客室年間稼働率は70.1%（前年比4%増加）であった。稼働率は平成19年度以来4年振りに70%を超えた。

しかし、売上高は245百万円（前年比▲5百万円）であった。これは相変わらず、周辺ホテルとの競争が激化しており客室単価が下がった事による。

#### 3. レストラン事業

「中国料理 豫園」と「レストラン 梅里」を業務委託により経営しているが、今年度の売り上げは、双方共に昨年度とほぼ同水準であり、合計で119百万円であった。

平成24年度より「レストラン 梅里」に代わり「中国料理 楓林」が開業する。「豫園」についても、業務委託契約から店舗賃貸借契約へと変更する。

## 〔Ⅲ〕 その他の事業

### 1. 会員相互友好事業 : 日中友好後楽会

賛助会員組織「日中友好後楽会」は、会館の施設を活用し中国人留学生と直接交流を行うことで相互理解を深め日中双方の親睦を促進できるよう創設された。

#### ① 会員数

平成24年3月末現在の後楽会の会員数は96名。(内法人会員1名)近年は会員の老齢化による会員数減少が進んでいる。

#### ② 談話会・会員集会

月例の行事として、談話会・会員集会を原則として月1回開いている。8月、12月は、お盆休み、年末多忙などの理由で休会としている。通例として、談話会は後楽寮生を講師として招き専門分野における研究成果の一端を日本語で披露してもらう。近年は日本語のできない寮生が増加している傾向にあり講師も日本語のできない者が増加していることから、日本語の堪能な寮生に通訳を依頼している。大学院での研究発表・講評・口頭試問などへの準備として有効なため寮生からは好評であり、また会員からも様々なテーマの講義を聞けると好評である。

談話会終了後には立食形式による夕食会を開催。食事を楽しみながら自由に寮生と会員が歓談できる。毎回の談話会の出席者は会員、寮生合わせて25～40名程度である。

また平成23年度の総会(11月25日)は51名の出席により小石川後楽園内の『涵徳亭』で行われた。

#### ③ 友好ハイキング

春秋2回、会員と後楽寮生が都内あるいは近郊へ友好ハイキングに出かけている。主に貸切バスを利用し、朝から夕刻まで長時間会員と寮生が行動を共にするため、実りの多い交流・交歓の機会になっている。平成23年度の春季ハイキングは東日本大震災の影響により中止した。秋季は静岡県富士サファリパークと御殿場わさびの郷を見学した。会員と寮生合計17名が参加した。サファリパークは中国国内には少なく、寮生は写真を撮ったり会員に質問をして交流を深めていた。

#### ④ 中国旅行

11月11日より11月17日の日程で、海南島、広州、開平を訪れた。参加者は21名。海南島海口では、元寮生で海南大学学長の李建保氏をはじめとする大学関係者から歓迎を受け、海南大学の日本語科の学生との交流も行った。後楽会で初めて海南省を訪問した。また広東省の世界遺産開平を訪れ、望楼と呼ばれる珍しい建物群を見学した。

### ⑤ 会員向け文化講座

月2回、第1、第3木曜日に気功教室と中国画教室が開かれ、いずれも高度な専門家の指導を仰いでいる。スタート以来11年を経過し、両教室とも生徒は10名に達しないが熱心に通いつけている。

### ⑥ 観桜会

会館行事として、毎年桜のシーズンに小石川後楽園内の『涵徳亭』で観桜会を催し、中国大使館をはじめ、会館理事・評議員、後楽会会員、後楽寮生を招待している。平成23年度年の観桜会（平成24年3月26日）は21回目となり出席者100人にて行われた。

#### 平成23年度後楽会活動（平成23年4月～平成24年3月）

	催 事	参加者数
6月23日	談話会・会員集会「中国の世界文化遺産の保護と観光」講師：徐桐	31
7月14日	談話会・会員集会「からだにいい水、おいしい水」講師：楊禹	22
10月17日	談話会・会員集会「新エネルギーの開発と利用」講師：胡波	28
11月11日～17日	中国旅行（海南島、広州、開平）	21
11月25日	第21回会員総会（小石川後楽園「涵徳亭」）	51
11月30日	秋季友好ハイキング（富士サファリパーク、わさびの郷）	17
1月19日	新春談話会（中華料理「豫園」）	44
2月16日	談話会・会員集会「オペラと日中歌鑑賞」講師：孟繁傑	43
3月24日	第21回観桜会（小石川後楽園「涵徳亭」）	100

## 〔IV〕 法人会計部門 : 総務財務部及び資産管理部

### 1. 人事

昨年度、職員就業規則をはじめとする13種類の各種規程（職員就業規則、職員給与規程、出張旅費規程等）を整備した。特に、働く女性の権利を守る「育児・介護休業等規則」の定着及び福利厚生の一環として東日本大震災の事例も考慮して「災害補償規程」を充実した。新公益法人移行後の評議員会、理事会など新体制下の運営に適した各種の運営規程も準備を開始した。

昨年8月には「新人事制度」を導入済みである。これにより楽しく働く意欲を持てる人事制度と人事評価の仕組みを整えた。

### 2. 広報

平成24年2月に組織横断型の広報チームを組成した。これにより、より有意義な広報を目指して活動を開始した。会館紹介のホームページをより充実させ随時更新した。

また、当財団の広報誌として、毎月発行の「会館だより」の配布先を厳選した。さらに「会館だより」を昨年同様にホームページに記載した。尚、活動の総括として年1回「日中友好会館年報」を例年通り各関係先に配布した。

### 3. 財務

#### (1) 事業活動収支

当期の事業活動収入合計は2,859百万円であり支出合計は2,512百万円となった。この主な要因は以下の通り。 (単位：百万円)

	収益事業合計	青少年交流事業 合計(注1)	後楽寮会計 (注2)	日中学院会計	合計
事業活動収入 (内部振替)	1,010 (5)	1,483	99 (37)	267	2,859 (42)
事業活動支出 (内部振替)	830 (20)	1,255	158	269 (22)	2,512 (42)
収支差額	180	228	▲59	▲2	347

(注1) 青少年交流事業の事業活動収入は平成24年度のキズナ強化プロジェクト拠出金等である。東アジア青少年交流事業の規模は1,255百万円である。

(注2)後楽寮会計事業活動収入の内部振替 37 百万円は収益事業 (20) 、日中学院 (17) よりの繰入金収入である。

(2) 一般正味財産増減

(単位:百万円)

	収益事業合計	青少年交流 事業合計	後楽寮会計	日中学院会計	合計
経常収益計	1,000	1,213	98	267	2,536
経常費用計	1,019	1,267	162	266	2,671
経常増減額	▲18	▲53	▲64	▲0.3	▲135
経常外収益	1	0	0	0	1
税引前当期一般 正味財産増減額	▲78	▲53	▲80	0	▲211
当期一般正味 財産増減額	▲71	▲53	▲80	0	▲205

(3) 会計ソフト

会館財務の IT 化については、本年度末に「新公益法人用会計ソフト」を導入し合理的な業務のバックアップ体制を整えた。

#### 4. 設備更新

平成23年度に実施致した主な設備更新は下記の通り。(単位:百万円)

- (1) 熱源・空調更新工事をESCO事業により実施。(総額15年間1,710 毎年114)
  - ① 大規模改修工事であり平成23年9月着工。平成23年1月に竣工。
  - ② 設備管理会社を三井不動産ビルマネジメント(株)から日本ファシリティ・ソリューション(株)に変更予定。(平成24年4月)
- (2) 非常用放送設備更新、自動火災報知機更新。(51)  
本館とホテル棟の防災設備を更新致。
- (3) 電話交換機及び電話設備の更新(ホテル棟、及び会館事務局) (14)
  - ① 会館事務局とホテル棟の電話交換機を統合・更新。
  - ② 電話回線を「ひかり電話」に変更。
- (4) ホテルエレベーター・バリアフリー改修 (4)  
東京都の助成金を得て、エレベーターのバリアフリー改修工事を実施。
- (5) 後楽寮防犯カメラシステムの導入 (16)  
警備費削減と後楽寮のセキュリティ強化を図った。

## 〔V〕 法人の状況

### 1. 理事会

開催日時	場 所	議 事 事 項
第 74 回 平成 23 年 4 月 22 日(金) 午後 2 時～3 時	日中友好会館	〔議事〕 ① 当会館（本館・別館）熱源・空調 設備更新計画の件 ② 新法人の定款検討状況に関する 中間報告の件
第 75 回 平成 23 年 5 月 13 日(火) 午後 2 時～4 時 05 分	日中友好会館	〔議事〕 ① 新法人定款（案）の件 ② 新法人役員及び報酬並びに費用に関する規定（案）の件 ③ 新法人賛助会規定（案）の件 ④ 新法人代表理事に現常務理事武田勝年 を選任する件 〔確認事項〕 ① 新法人の最初の評議員は、評議員選定 委員会で選任された者とする件
第 76 回 平成 23 年 6 月 27 日(月) 午後 2 時～5 時 40 分	日中友好会館	〔議事〕 ① 平成 22 年度事業概要報告書(案)並びに 平成 22 年度決算書(案)承認の件 ② 評議員選任の件 ③ 公益財団法人認定申請後の理事長に 現常務理事武田勝年を委嘱する件 ④ 新法人代表理事に現常務理事武田勝年 を委嘱する件 〔報告事項〕 ① 公益法人制度改革の件

第77回 平成24年3月26日(月) 午後2時～4時	日中友好会館	〔議事〕 ① 平成23年度収支予算の補正(案)承認の件 ② 平成24年度事業計画(案)並びに収支予算(案)承認の件
----------------------------------	--------	---

## 2. 評議員会

開催日時	場 所	議 事 事 項
第60回 平成23年6月28日(火) 午前14時～15時30分	日中友好会館	〔議事〕 ① 議長選出の件 ② 理事推薦の件

## 3. 学生寮運営委員会

開催日時	場 所	議 事 事 項
第30回 平成24年3月14日(水) 午後14時00分 ～16時00分	日中友好会館	〔議事〕 平成23年度学生寮運営概況報告及び 平成24年度の運営方針説明

## 4. 日中学院評議会

開催日時	場 所	議 事 事 項
第31回 平成24年2月21日(火) 午後2時00分～3時00分	日中学院	〔議事〕 平成24年度日中学院活動計画及び 平成24年度日中学院予算について

5. 役員に関する事項

平成23年度中の役員の変動は次の通りである。

- 平成23年6月28日
- ・片寄浩紀氏が新任理事に辞任。
  - ・谷野作太郎氏、小池敏明氏、今井敬氏、黄文欽氏、岩沙弘道氏、陳焜旺氏、福田昭昌氏、三木繁光氏が理事に再任。
  - ・加藤三郎氏、松野信也氏が監事に再任。
  - ・海江田万里氏、勝俣恒久氏、瀧上貞雄氏が理事を辞任。

平成24年3月末現在の役員は別紙の通りである。

6. 職員の状況（平成24年3月末現在）

	職 員	嘱 託	臨時職員	計	前年度比
男 子	12	7	0	19	0
女 子	19	3	0	22	0
合 計	31	10	0	41	0

7. 日中学院教職員の状況（平成24年3月末現在）

	教 員	職 員	計	前年度比
男 子	16	2	18	+0
女 子	54	4	58	+4
合 計	70	6	76	+4



## 8. 役員名簿（評議員）

氏名	役職
野田 英二郎	(財)日中友好会館顧問
天坊 昭彦	石油連盟会長
辻 松雄	全国銀行協会企画部長
大坪 文雄	情報通信ネットワーク産業協会会長
岩武 俊広	(社)日本自動車工業会理事
矢野 薫	(社)電子情報技術産業協会会長
檜田 松瑩	(社)日本貿易会会長
小倉 和夫	独立行政法人国際交流基金理事長
濱田 純一	(社)国立大学協会会長
森 民夫	全国市長会会長
藤原 忠彦	全国町村会長
成澤 廣修	東京都文京区長
清川 佑二	(財)日中経済協会 顧問
大沼 淳	日本私立大学協会会長
清家 篤	(社)日本私立大学連盟会長
福井 正興	(社)日本青年会議所会頭
岡崎 助一	(財)日本体育協会専務理事
横川 健	日本中国文化交流協会専務理事
秋岡 家榮	秋岡事務所代表
殷 秋雄	東京華僑総会顧問
草原 克豪	元文部省生涯学習局長
塩谷 立	衆議院議員
張 瓏庭	東京華僑総会理事
張 銘忠	東京華僑総会理事
柘植 元一	東京芸術大学音楽学部名誉教授
野田 毅	衆議院議員
曾 徳深	前日本華僑華人聯合総会会長
金 秀太郎	(財)日本経済研究所理事
吉田 隆司	前日中学院長
坂中 英徳	移民政策研究所所長
川人 正幸	川人事務所代表

(平成24年3月31日現在)

## 9. 役員名簿（理事・監事）

氏名	役職名	常勤・ 非常勤	就任年月日	職業（前職）
江田 五月	会長	非常勤	平成22年7月20日	参議院議員 元法務大臣
谷野 作太郎	副会長	常勤	平成14年6月1日	元中国大使
文 遅	副会長	非常勤	平成8年2月15日	中国日本友好協会副会長
村上 立躬	理事長	常勤	昭和59年7月30日	(財)日中友好会館理事長
武田 勝年	常務理事	常勤	平成22年7月20日	元三菱商事常務執行役員 中国総代表
王 昆	理事	常勤	平成23年2月9日	元駐長崎総領事
今井 敬	理事	非常勤	平成14年6月1日	(社)日本経済団体連合会名誉会長
岩沙 弘道	理事	非常勤	平成22年3月19日	三井不動産(株)代表取締役社長
太田 昭宏	理事	非常勤	平成14年7月30日	前衆議院議員
小池 敏明	理事	非常勤	平成22年3月19日	日中学院学院長
黄 文欽	理事	非常勤	昭和56年3月4日	東京華僑総会顧問
竹下 亘	理事	非常勤	平成14年7月30日	衆議院議員
陳 焜旺	理事	非常勤	昭和55年5月28日	東京華僑総会名誉会長
片寄 浩紀	理事	非常勤	平成23年6月28日	日本国際貿易促進協会専務理事
福田 昭昌	理事	非常勤	平成15年6月29日	元文部省生涯学習局長
三木 繁光	理事	非常勤	平成19年6月29日	(株)三菱東京UFJ銀行特別顧問
西堀 正司	理事	非常勤	平成22年7月20日	(社)日本中国友好協会常務理事
加藤 三郎	監事	非常勤	平成16年6月30日	公認会計士
松野 信也	監事	非常勤	平成16年6月30日	DBJ投資アドバイザー(株) 代表取締役会長

(平成24年3月31日現在)